表卷ニ其大納言トノヘ（中納言モ宰相モアリ）年号月日

伊勢ハ内宮ヲ日神トシ外宮ヲ月神トシ両宮一光ノ御事ヲ天照二所皇大神ト稱シ奉ル共ニ宗廟ノ御神ナリトイフ説起リケル是ハ玉葉集ニ大神宮ノ御歌トテ天照ス月ノ光ハ神垣ヤ曳注連縄ノ内外トモナシ風雅集ニ度會朝棟カ片樔ノ千木ハ内外ニ替レトモ誓ハ同シ伊勢ノ神垣ナトヨメルヲ口實トシテ内外ノ差別ナキカ如ク申沙汰セレニヤ寛永二年十二月羅山林先生ノ勘文ヲ以テ其分辨炳焉タリ又延享三年尾州東照宮ノ祠官吉見恭軒ノ門人井上則明カ二宮一光辨ニ件ノ事ヲ論究ス併覧ルヘシ今寛永ノ勘文ヲ錄スルヿ左ノ如シ

寛永二年十二月奉答　尾張黄門之下問

延喜式條九伊勢國度會郡大神宮三座（相殿坐神）

二座（度會宮四座相殿坐神三座）

内宮

大神宮一座　天照大神

相殿二座

日本紀ノ説ヲ以テ理ヲ推テ云ハヽ此二
座ハ天鈿女命猿田彦神ナルヘシ天孫降
臨ノ時天鈿女命ハ供奉ノ五神ノ内ナリ
路次ニテ猿田彦神ト問荅シテ其指南ニ
依テ天孫ハ筑紫ニ日向ニアヽクタリ玉
フ天鈿女命ハ猿田彦ノ申請ニ任セテ猿
田彦ヲ送テ伊勢ノ五十鈴川上ニ到ル天
孫勅シテ天鈿女ニ姓ヲ賜テ猿女君ト号
ス猿田彦ノ名ヲアラハス義ナリ垂仁天
皇ノ御宇大倭姫神鏡ヲ戴テ伊勢ニ往ク
時ニ猿田彦ノ苗裔大田命ニ逢テ其教ニ
依テ五十鈴川上ニ霊地ヲ見テ神宮ヲ立
ツコレニ据テ思ヘハ大倭姫ノ時ニ天鈿
女ト猿田彦トヲ大神宮ノ傍ニ祭ルナル
ヘシ伊勢ニテ興玉神ト申ハ猿田彦ノ事
ナリ子良子ト云ハ天鈿女ノ子孫ナリ大
田命ヲ興玉トモ申スナリ猿田彦昔ヨリ
五十鈴川ニアリテ後千万年ヲ経テ大倭
姫始テ來レハ伊勢ハ元來猿田彦ノ本國
ナリ然レハ此神ヲ大神宮ノ瑞籬ノ内ニ

祭ルヘキ事謂ヤニアラス猿田彦鼻長
七尺アリ神事ノワタリ物ニ王ノ鼻ト云
モノ、アルハ此因縁ナリ

外宮

度會宮一座　豊受大神

相殿三座　左天孫瓊々杵尊
　　右天兒屋根尊 中臣祖
　　天太玉命 忌部祖

右ノ四座ハ神皇正統記ノ説ヲ以テ見レ
ハカクノ如クアルヘキ欤豊受大神豊鋤
入姫命ハ崇神ノ女ナリ天照大神ノ託宣
ヲ受テ神器ヲ戴キ諸國ヲアリキテ丹波
ノ與謝ノ宮ニ移リシ時豊受大神天ヨリ
降リテ一所ニ住玉フ四年ヲ經テ豊鋤入
姫大和國ニ歸ル垂仁ノ時天照大神託宣
シテ豊鋤入姫ヲ離レテ大倭姫ニツキ玉
ヒ伊勢國ニ鎮座シ玉フソレヨリ四百八
十四年ヲ經テ雄略天皇二十一年丁巳ノ
年ニ至ルヽテ大倭姫オハシヽシテ神託
ヲ受丹後ヨリ豊受大神ヲ伊勢ノ度會郡

山田原ノ新宮ニ迎奉ル此神ハ天御中主
神ナル故ニ天照大神モ先此神ヲ我ヨリ
サキニ齋祭レト宣ヒテ尊ヒ玉ヘリ高天
原ニマシマス神ノ名ヲ天御中主尊ト申
ス日本紀ニ侍レハ國常立尊ト同體異名
ナリト申傳ヘタリサレハ齋然法師カ年
代記ニモ日本國ノ初主ヲ天御中主ト号
ストアリトイフ文獻通考ニ見エタリ
日本開闢ノ初神ナレハ國常立ト同神ナ
ルヿ疑ナシ又此神ヲ天狹霧國狹霧トモ
名付ケ又陰陽元氣ノ神ナル故ニ御氣ノ
神トモ申ス御氣ト豊受ト同義ナルヘシ
豊ハホメタトヒタル詞ナリ又此宮ニテ
御膳ヲ調ヘ毎日大神宮ヘ送リ奉ル其御
膳殿ヲ始テ建ルヿハ神亀年中ノ事ナリ
御膳ヲ御食トイフ故ニ此神ヲ御膳神ト
云ハ僻説ナルヘシ一説ニ伊勢ノ外宮ニ
ヲ五穀ノ神倉稲魂命ヲマツルトアレハ
是御膳神トモイフヘキニヤ倉稲魂ハ伊
弉諾ノ子ナリ

ト部ノ家説ニ伊勢内宮相殿ノ左ノ脇ニ手力雄神ヲ祭ルトイヘリ按ニ昔ハ神社名正シク祭祀嚴カナリシヲ後世巫祝ノ輩祭物ヲ貪ラン爲ニ本末ノ名ヲ乱リテ内宮ノ相殿ニハ外宮ヲ勸請シ外宮ノ相殿ニハ内宮ヲ勸請シテ其真實ヲ失フモ侍ルヘシ又大倭姫ノ時ニ中臣ノ祖大鹿嶋命ヲ祭主トシ大幡主ヲ神主トスト言傳ヘハ内宮ニモ天兒ヤ根天大玉ヲ祭ル事モ有ヘキナリ總シテ社家ノ説區々ナリトイヘドモ唯舊事記古事記日本紀古語拾遺神祇令延喜式江次第等ノ説ヲ考合セテ見侍ルヘキ事ナリ未勘ノ所重子テ錄上スヘシ

道春

天和二年戌ノ三月上野年中ノ行事ヲ定メ津梁院ヘ下サル

覚

一御廟江参詣之儀　御成之節御三家并御息方甲府宰相殿此外者堅可爲無用事

一御廟者不及申　御佛殿迴見物有之度之